



株式会社ミツウロコグループホールディングス

〒104-0031

東京都中央区京橋三丁目1番1号 東京スクエアガーデン

TEL: 03-3275-6300 (代表) FAX: 03-3275-6350

mail: ir-sec8131@mitsuuroko.co.jp

●本書では、視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォントを使用しています。



ちびまる子ちゃん
©さくらプロダクション/日本アニメーション

「ちびまる子ちゃん」(フジテレビ系列)で
ミツウロコ企業広告CMオンエア中!

株式会社ミツウロコグループホールディングス

第106期 報告書

2014年4月1日～2015年3月31日



Mitsuuroko Group Business Report 106th



保険代理事業

火災保険、損害保険、
生命保険等、各種保険の
取り扱い



エネルギー事業

LPガス、石油、
新エネルギー機器等の販売



PM/健康・スポーツ事業

オフィスビル、マンション等の
賃貸、複合商業施設の経営



ミツウロコグループは、
地球にやさしいエネルギーと
生活周辺サービスを中心に、
豊かなくらしづくりに貢献している
企業グループです。



業務サポート事業

料金収納代行、
システム開発等



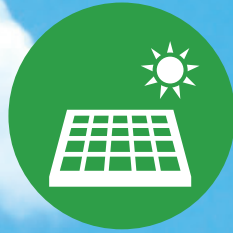
飲料事業

ミネラルウォーターを中心とした
清涼飲料水の製造・販売



リース事業

一般事務用機器、
情報通信機器、産業用機械、
輸送機器等のリース



電力事業

風力発電、バイオマス発電、
メガソーラー発電、新電力
(PPS) 事業での電気販売

売上高

2,213
億円

第106期連結
2014年4月1日～2015年3月31日

経常利益

44
億円

第106期連結
2014年4月1日～2015年3月31日

純利益

27
億円

第106期連結
2014年4月1日～2015年3月31日

設立

89
年

DATAで見る
ミツウロコグループ

事業所数

135
拠点

2015年3月末

従業員数

1,698
名

2015年3月末

LPガス供給軒数

約80
万軒

再生可能エネルギー
発電量/年間

約2億7,000
万kWh

約72,600世帯相当
※現在建設中および計画中発電所を含む

株式会社ミツウロコグループホールディングス
Mitsuuroko Group Holdings Co., Ltd.

成長分野へ重点的に注力し、
総合力でグループ全体の成長を
はかります。

第106期（平成27年3月期）の業績について

当期における我が国の経済情勢は、政府の経済政策や金融緩和策を背景に緩やかな回復基調が続き、円安・株高の影響から特に輸出企業を中心とした収益の大幅な改善が進んでいるものの、消費税の引上げに伴う駆け込み需要の反動などによる個人消費の低迷からGDP数値等の経済指標の不振などの懸念材料もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

また、当社グループを取り巻く経営環境においては、原油価格およびLPガス仕入価格の指標となるCP（Contract Price＝輸入通告価格）が下落傾向にあるものの、消費者の「省エネ」意識の定着や高効率機器の普及によるLPガスの世帯あたり使用量の減少傾向も顕著であること等、依然として厳しい経営環境が続いております。

こうした状況下、当社グループは様々な業務コスト低減策の取り組みにより経営の合理化を進めるとともに、太陽光発電事業を引続き強化し、新電力（PPS＝特定規模電力事業者）事業における電気の販売量拡大や、飲料関連事業拡大にも力を注いでまいりましたが、前期において、グループ基幹システムの変更により、LPガス在庫数量の算定方法が変更され、売上原価が減少したことによる営業利益の増加があったこともあり、当連結会計年度の売上高は前期比4.7%減の2,212億70百万円、営業利益は前期比19.0%減の38億6百万円、経常利益は前期比17.6%減の43億61百万円となり、当期純利益は前期比6.0%減の26億54百万円となりました。

今後当社グループでは、LPガス事業については引き続き販売顧客数、販売数量の拡大を目指すとともに、エネルギー周辺事業では家庭用燃料電池や蓄電機器の普及に注力してまいります。また、平成26年12月に日本国内の運営権を取得した「カールスジュニア」の積極的な店舗展開とショップ&レストラン事業の展開を中心にフード&プロヴィジョンズ事業や電力事業など、成長著しい分野へ重点的に力を注ぎ、総合力でグループ全体の成長を補完してまいります。

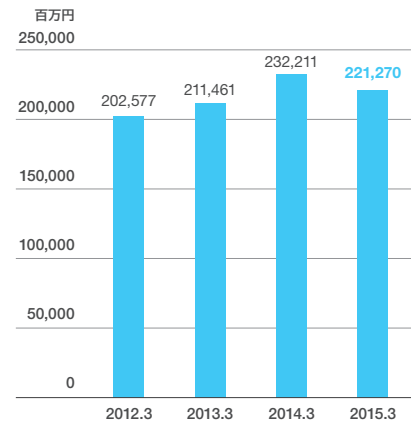
これら取り組み等により、今後のグループ業績への貢献を見込むとともに、これまでに増して“豊かなくらしのにないて”として、広く社会に貢献する企業グループを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの経営活動にご理解をいただき、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長兼グループCEO 田島晃平

業績ハイライト

売上高



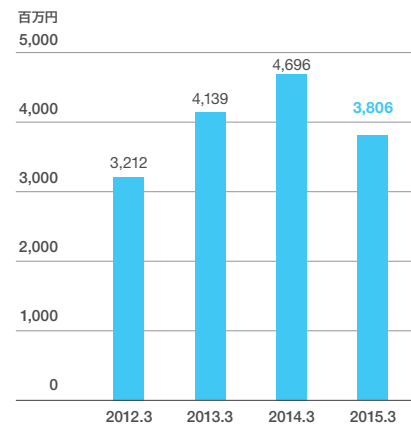
① **エネルギー事業** 主力のLPガスの販売数量増加のほか、太陽光発電所（2,000キロワットアワー未満）の売電等が売上高に貢献しましたが、石油製品や新エネルギー機器の販売数量が伸び悩んだこと、またLPガスや石油製品の販売価格低下の影響から売上高は前期比8.0%減の1,955億33百万円となりました。

② **PM/健康・スポーツ事業** 新規物件の賃貸開始等によるテナント収入が増加し、また温浴施設「SPA EAS（スパイアス）」の入場者数が増加しましたが、客単価の減少とボウリング場の入場者が伸び悩んだことから、売上高は前期比0.3%減の27億97百万円となりました。

③ **電力事業** 新電力（PPS＝特定規模電気事業者）事業での電気販売量が大きく増加したことにより、売上高は前期比35.0%増の177億57百万円となりました。

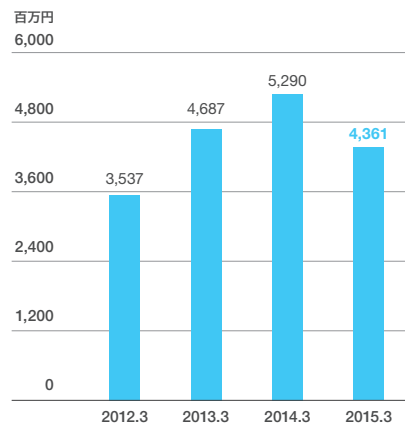
④ **その他事業** 飲料関連事業として展開するFC事業における店舗数の拡大や西日本エリアに生産・販売拠点を有する「勝水株式会社」がグループの一員に加わったことにより飲料関連事業の売上高が増加、またリース事業の売上高が増加したこと等により、売上高は前期比43.5%増の51億81百万円となりました。

営業利益



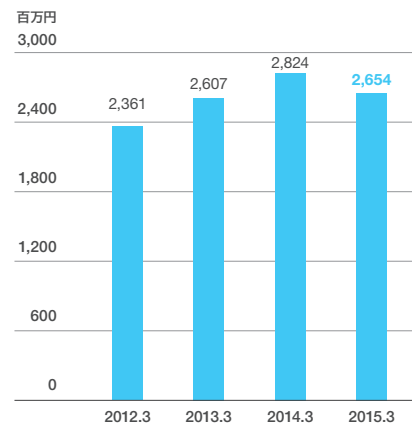
飲料関連事業が大幅に伸長する一方、前期においてLPガス在庫数量の算定方法が変更され売上原価が減少していたことや、収益力の高い風力発電事業において風況が低調に推移したこと、またリース事業の販売管理費が増加したこと等により営業利益は前期比19.0%減の38億6百万円となりました。

経常利益



営業利益が8億円減少した一方で、持分法適用会社の利益増加等に伴い持分法による投資利益が5億円増加しましたが、デリバティブ損失の計上等により経常利益は前期比で9億円減少しました。

純利益



経常利益が9億円減少した一方で、賃貸借契約解約損の減少、固定資産売却損の減少および、法人税の減少等により、当期純利益は前期比で1億円減少しました。

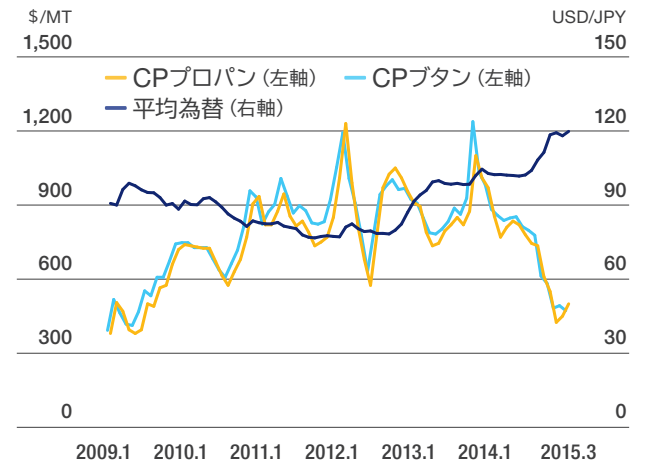
LPガスの市場環境

輸入が大半を占めるLPガスの価格は、輸出国の港を通関する際の価格（CP=contract price）の影響を大きく受けます。CPIは、サウジアラビアの国営石油会社サウジアラムコ社が、原油価格動向等をもとに自社の総合基準により決定する一方的な通告価格で、価格交渉の余地がありません。

2015年に入ってから、OPEC 定例総会での減産見送り、中国・欧州の景気減速、米国シェールガスの増産などの影響によりCPIは最低水準で推移しています。ただ、4月に入り、米国のシェールオイル減産を背景にWTI（米国産標準油種）が上昇基調へと転じ始めました。

今後、イラン核協議合意による経済制裁の解除で原油輸出が増えれば原油価格は下がることとなりますが、中東情勢次第ではリスクプレミアムが上乘せされる可能性もあり、CPの上昇要因は依然として残ります。また、次回のOPEC 定例総会では、現状は現行の政策が維持されるだろうとの見方が強いですが、減産となれば必然的に価格上昇となりますので、今後の状況を注視していく必要があります。

LPガス輸入価格と為替の推移



担当者
に訊く！

「ミツウロコの強さと可能性」

グループCLOとして、熱意と冷静さを持って ミツウロコグループの未来を支えています。

ミツウロコへの入社、出産・育児による生活スタイルの変化がきっかけの1つです。弁護士としてのこれまでの経験を活かし、企業を内側からサポートする立場となって3年目を迎えます。この春からはグループCLO兼社長室部長に就任し、気持ちも新たに、更なる第一歩を踏み出し始めています。

CLO（最高法務責任者）としての私の役目は、ミツウロコグループの成長を後押しする陰のサポーターになることだと思っています。エネルギー事業を核にしつつ、新しいことにも積極的に取り組める前向きな姿勢は、ミツウロコの大きな強み。しかしその裏には、時に法的なリスクが潜んでいたり、気を付けていても足をすくわれてしまうような避けられない事態なども起こり得ます。私は、一社員として応援しつつも、CLOとして常に冷静な目で物事を見つめ、アクセルとなったりブレーキとなったりしながら、法的な視点でグループをフォローしていける、そんな存在になりたいと思っています。

また一方で、今後ミツウロコは、CLOを置く企業として、対外的な期待や信頼度が高まっていくと思います。私自身、その期待に応える努力を行っていくと同時に、社員一人ひとりのリーガルマインドを高めていくためのサポートなども行い、グループ全体の意識の引き上げにも貢献していきたいと考えています。

社員がみんな元気でポジティブ。女性もイキイキと働いています。私のような働く母への理解もあり、大変ありがたいです。今後は私も、女性の幅広い活躍のために、環境づくりや人材育成にも協力していきたいです。



株式会社ミツウロコグループホールディングス
グループCLO兼社長室部長

竹内亜起 (2012年入社)

常に時代の先を見つめ、幅広い事業でお客さまのくらしづくりに貢献しているミツウロコ。
第一線の現場で働く人々の声から、企業価値や今後の可能性を探ります。

「かゆいところに手が届く」サービスで、 お客さまのくらしに安心をお届けしています。

LPガスの小口配送業務を担当して12年、お客さまのくらしを支える重要な任務を背負っているという意識を胸に、仕事に励んでいます。この仕事で最も大切なことは、ガスをお客さまの元に確実に安全にお届けすることですが、同時に、お客さまとのコミュニケーションも大事な要素の一つです。挨拶から始まる何気ない会話を、ガス切れの防止や、サービスの向上に役立て、より一層の信頼関係の構築につなげています。

そんな日々の業務の積み重ねが、昨年1つの形になりました。社内で行った配送コンテストで、優勝することができたのです。仲間達とともに練習を重ね、お互いを評価し合い、励まし合うことで得られた結果ですので、決して自分だけのものとは思っていませんが、この受賞が今、私の仕事に対する原動力となっていることに間違いはありません。また、これをきっかけに社員一人ひとりの意識も高まり、団結も強まるなど、確実に社内全体のモチベーションがアップしていることを実感しています。

私の今後の目標は、LPガス配送のスペシャリストになること。常に真摯に、前向きに業務に向き合い、これからも地元のお客さまのために、末永くこの仕事を続けていきたいと思っています。

エネルギー事業から生活周辺サービスまで、時代の流れやニーズに敏感に反応して多角的に事業展開できるフットワークの良さが強みだと思います。グループ間の連携の良さも魅力です。



ロジトライ株式会社
栃木エリア 栃木事務所

佐柄政秀 (2003年入社)

事業概況



エネルギー事業

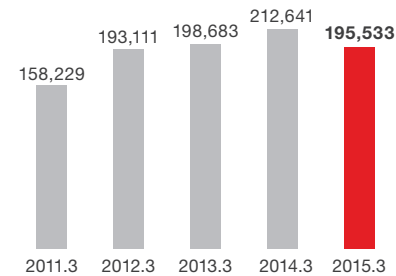
当期売上高

1,955億33百万円
前期比 **8.0%減**

営業利益

34億94百万円
前期比 **15.1%減**

売上高(百万円)



主力のLPガスは顧客の創造に注力した結果、販売数量が増加したほか、各地で計画している太陽光発電所（2,000キロワットアワー未満）の一部運転開始に伴う売電等が売上高に貢献しましたが、石油製品や太陽光発電システム、家庭用燃料電池エネファーム等の新エネルギー機器の販売数量が伸び悩み、また市況の影響によるLPガスや石油製品の販売価格低下の影響から売上高は前期比8.0%減の1,955億33百万円となりました。

なお、前期においては、グループ基幹システムの変更により、LPガス在庫数量の算定方法が変更され、原価が減少したことによる営業利益の増加があったこともあり、営業利益は前期比15.1%減の34億94百万円となりました。



PM/健康・スポーツ事業

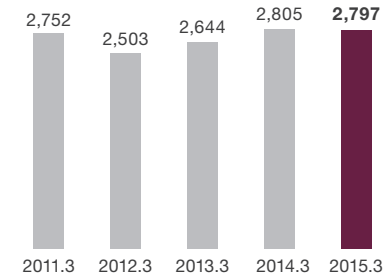
当期売上高

27億97百万円
前期比 **0.3%減**

営業利益

3億99百万円
前期比 **27.8%増**

売上高(百万円)



不動産賃貸は、新規物件の賃貸開始等によるテナント収入が増加し、また横浜駅西口の複合商業施設「HAMABOWL EAS（ハマボールイアス）」では温浴施設「SPA EAS（スパイアス）」の入場者数が増加しましたが、客単価の減少とボウリング場の入場者が伸び悩んだことから、売上高は前期比0.3%減の27億97百万円となりましたが、減価償却費負担額の低減や販売管理費の削減効果により、営業利益は前期比27.8%増の3億99百万円となりました。



TOPICS

次世代農業EXPO
(アグリネクスト)に出展

2014年10月15日（水）～17日（金）、幕張メッセで行われた「次世代農業EXPO」に、当社グループが業務提携している株式会社ルネサンス エコファームと共同出展しました。

ルネサンス エコファームは、農地向け太陽光発電設備の販売を行うとともに、全国で耕作放棄地が増えている現状を踏まえ、売電で収入を得ながら農業を手掛けていくことができるよう、農地上で太陽光発電と農業・畜産業を両立するシステムの提案を行っています。

また、太陽光発電設備の設計などもルネサンス エコファームが手掛けており、実際に山口県防府市で出力250kWの太陽光発電設備を農地で運用しています。

今回の出展により、多くの農業関係者様や新エネルギー関連会社様にブースを訪れていただき、ソーラーシェアリングについて関心を持っていただくきっかけを生み出すことができました。



1 ルネサンス エコファーム中村社長の講演会は立ち見がでるほど山発電 地方の未来を変えるソーラーシェアリング」の販売も好調

2 ルネサンス エコファーム中村社長著「里山発電 地方の未来を変えるソーラーシェアリング」の販売も好調

3 ソーラーシェアリング

事業概況



電力事業

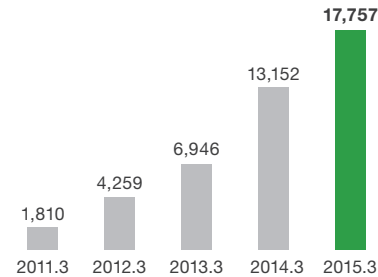
当期売上高

177億57百万円
前期比 **35.0%増**

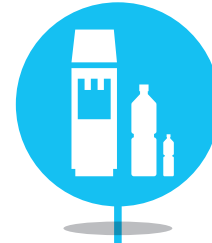
営業利益

9億37百万円
前期比 **16.6%減**

売上高(百万円)



新電力(PPS=特定規模電気事業者)事業での電気販売量が大きく増加したことにより、売上高は前期比35.0%増の177億57百万円となりましたが、収益力の高い風力発電事業において風況が低調に推移したことで売電が減少したため、営業利益は前期比16.6%減の9億37百万円となりました。



その他事業

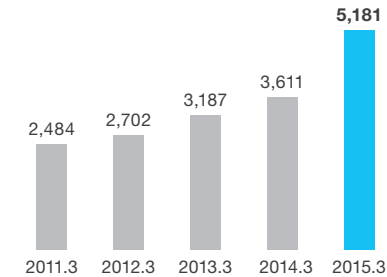
当期売上高

51億81百万円
前期比 **43.5%増**

営業損失

2億27百万円
前期比 **3億49百万円減**

売上高(百万円)



飲料関連事業として展開するFC事業における店舗数の拡大や2015年1月に西日本エリアに生産・販売拠点を有する「勝水株式会社」がグループの一員に加わったことによる飲料水の販売量増加等により、飲料関連事業の売上高、営業利益はともに増加しましたが、リース事業の販売管理費が増加した結果、売上高は前期比43.5%増の51億81百万円となった一方で、営業損益は前期比3億49百万円悪化し、2億27百万円の営業損失(前期は1億21百万円の営業利益)となりました。



外食事業を拡大。 米国ハンバーガーチェーン 「カールスジュニア」を運営開始！

TOPICS



2014年12月19日 パレスホテルでの記者会見の様子

10年で150店舗を目標

米国で人気のハンバーガーチェーン「カールスジュニア」を世界展開する米国CKEレストランホールディングスから日本での営業権を獲得し、同チェーンの運営を開始します。

まず、東京都内に1号店を2015年秋にオープンさせ、2025年までに全国で150店舗まで拡大させる計画です。直営店だけではなく、フランチャイズでの展開も視野に入れています。

ミツウロコでは、これまでカフェや居酒屋、スパ、ボウリング等、様々な業態の店舗運営を成功させてきました。その運営ノウハウを武器に外食カテゴリーを拡大させ、新たな事業の柱として成長させていきます。

手頃な価格と高品質が特長

「カールスジュニア」は、1941年創業。世界で最も厳しいと言われている米国ハンバーガー市場で5番目の規模を誇る人気のハンバーガーチェーンです。アメリカだけではなく、ブラジル、カナダ、オーストラリア、中国等全世界で3,500以上の店舗を運営しています。価格帯は、700～900円でセットメニューが選択でき、かつボリュームがあるのが人気の秘密です。

ブラックアングスビーフ100%のパティとフレッシュ野菜のボリューム感のあるバーガー



CLOSE UP!

ミツウロコグループの取り組みをご紹介します！

01

ミツウロコビバレッジが全株式を取得 勝水株式会社がミツウロコグループの一員に

ミツウロコビバレッジは、現在、飲料水製造工場を山梨県山中湖村と鳴沢村に有しており、東日本を中心に販売展開を行っています。近年、西日本への取引も拡大していることから、西日本に新たな生産拠点とブランドの獲得を模索していました。そんななか、2015年1月に、岐阜県海津市に本社と飲料水製造工場を有し西日本を中心に全国の取引先へ供給を行っている勝水株式会社の全株式を取得しました。

これによりミツウロコビバレッジとしては、全国への販売・物流体制が整うことになります。また、生産拠点の分散化により事業継続性を高められるとともに、これまでの「富士山ブランド」に加え、新たな名水もラインアップに追加されることになります。

ミネラルウォーター市場トップ5を目指し、更なる販売の拡大と日本全国でのビジネス展開で着実にシェアを高めていくとともに、アジアを中心としたグローバル展開も視野に入れて事業を展開していきます。



勝水株式会社 本社・岐阜養老工場



02

「ショップ&レストラン事業部」を立ち上げ



病院内 職員食堂



病院内 ショップ&カフェ

ミツウロコビバレッジは、コカ・コーライーストジャパン株式会社のグループ子会社が運営していた企業や病院などにおける売店・食堂の運営事業を譲受し、2015年4月より「ショップ&レストラン事業部」を立ち上げ、新たな事業として取り組みを開始しました。

ミツウロコビバレッジは、2013年の「タリーズコーヒー」2店舗を皮切りに、2014年にはコカ・コーライーストジャパン株式会社のグループ子会社からの事業譲受により「しゃぶしゃぶ温野菜」「かまどか」など4店舗の運営を開始、そして2015年3月には同じく事業譲受によりコンビニエンスストア「生活彩家」3店舗の運営を加え、「食」の分野の事業拡大に積極的に取り組んできました。今回の運営権取得により、ミツウロコビバレッジが展開する飲食関連事業の店舗は91店舗となります。

今後も当社グループにおける飲食関連事業の中核会社として更なる事業の拡充に努めてまいります。



ホテル内 コンビニエンスストア

新事業の概要

事業内容	企業（主に工場、物流）、病院、学校、公共施設内の売店52店・食堂30店の運営
事業エリア	主エリアは千葉県、茨城県、その他東京都、栃木県、埼玉県、群馬県に展開
売上規模	2014年度実績：25億円

勝水株式会社

所在地	本社／岐阜養老工場 岐阜県海津市南濃町徳田99番地3
事業内容	ペットボトルブロー成形、清涼飲料水・飲料水の製造・加工・販売
主力商品	ナチュラルミネラルウォーター「自然湧水」「郷の恵み」「奥しみず」など

連結財務情報

連結損益計算書(要旨)		(単位: 百万円)
科 目	当期 2014年4月 1日から 2015年3月31日まで	前期 2013年4月 1日から 2014年3月31日まで
売上高	221,270	232,211
売上原価	192,888	201,355
売上総利益	28,382	30,856
販売費及び一般管理費	24,575	26,159
営業利益	3,806	4,696
営業外収益	1,391	1,053
営業外費用	835	459
経常利益	4,361	5,290
特別利益	13	70
特別損失	250	689
税金等調整前当期純利益	4,124	4,671
法人税、住民税及び事業税	1,224	1,698
法人税等調整額	142	131
少数株主損益調整前 当期純利益	2,758	2,841
少数株主利益	103	17
当期純利益	2,654	2,824

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)		(単位: 百万円)
科 目	当期 2014年4月 1日から 2015年3月31日まで	前期 2013年4月 1日から 2014年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	6,172	4,850
投資活動による キャッシュ・フロー	11,229	△ 1,944
財務活動による キャッシュ・フロー	279	△ 1,691
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	17,681	1,214
現金及び現金同等物の 期首残高	19,185	17,971
現金及び現金同等物の 期末残高	36,867	19,185

連結貸借対照表(要旨)		(単位: 百万円)
科 目	当期 2015年3月31日現在	前期 2014年3月31日現在
資産の部		
流動資産	65,361	67,601
現金及び預金	36,922	34,002
受取手形及び売掛金	16,034	19,799
商品及び製品	4,799	6,529
繰延税金資産	401	550
その他	7,276	6,842
貸倒引当金	△ 72	△ 123
固定資産	63,293	60,664
有形固定資産	33,614	33,574
建物及び構築物(純額)	11,524	12,011
機械装置及び運搬具(純額)	7,363	7,648
土地	12,469	12,396
建設仮勘定	135	219
その他(純額)	2,121	1,298
無形固定資産	3,058	3,416
のれん	1,274	1,488
その他	1,784	1,928
投資その他の資産	26,620	23,673
投資有価証券	16,111	14,241
繰延税金資産	559	633
その他	10,567	9,022
貸倒引当金	△ 618	△ 224
繰延資産	2	－
開業費	2	－
資産合計	128,658	128,265
負債の部		
流動負債	28,227	33,751
支払手形及び買掛金	14,235	19,276
短期借入金	9,132	9,898
未払法人税等	436	964
賞与引当金	814	826
その他	3,608	2,785
固定負債	29,640	27,399
長期借入金	16,639	15,519
繰延税金負債	3,612	3,477
退職給付に係る負債	1,911	1,802
その他	7,477	6,599
負債合計	57,868	61,151
純資産の部		
株主資本	65,779	63,151
資本金	7,077	7,077
資本剰余金	5,833	5,843
利益剰余金	55,071	53,442
自己株式	△ 2,203	△ 3,213
その他の包括利益累計額	4,785	3,841
その他有価証券評価差額金	5,341	4,350
繰延ヘッジ損益	△ 391	△ 311
退職給付に係る調整累計額	△ 164	△ 197
少数株主持分	224	121
純資産合計	70,789	67,114
負債純資産合計	128,658	128,265

当期のポイント

① 連結損益計算書

飲料関連事業が大幅に伸長する一方、前期においてLPガス在庫数量の算定方法が変更され売上原価が減少していたことやリース事業の販売管理費が増加したことによる営業利益の減少および、法人税の減少等により当期純利益は前期比1億円の減少となりました。

② 連結キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フローの状況は、売上債権の減少および仕入債務の減少等により営業活動でプラス61億円、定期預金の払戻等により投資活動でプラス112億円、自己株式の売却や配当金の支払い等により財務活動でプラス2億円となりました。

③ 連結貸借対照表

総資産は、売上債権の減少や現金及び預金の増加等により前期比3億円の増加、負債は、仕入債務の減少や長期借入金の増加等により前期比32億円の減少、また純資産は、自己株式の減少や当期純利益の計上等により前期比36億円の増加となりました。

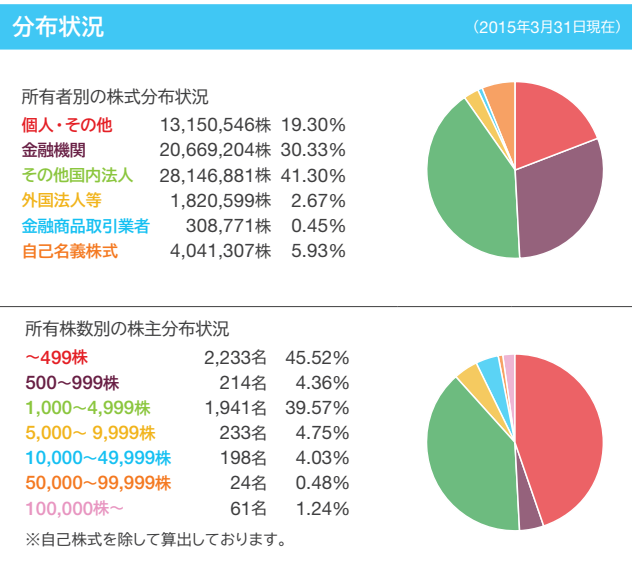
会社概要	
社名	株式会社ミツウロコグループホールディングス
英文社名	Mitsuuroko Group Holdings Co., Ltd.
主な事業内容	持株会社（グループの経営戦略・経営管理）
本社所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目1番1号
創立年月日	1926年（大正15年）5月10日
資本金	70億77百万円
従業員数	38名／連結：1,698名（2015年3月31日現在）

役 員		（2015年6月26日現在）
代表取締役社長兼グループCEO	田島 晃 平	
代表取締役兼グループCFO	渡邊雅人	
取締役	二見 敦	
取締役	児島和洋	
取締役	川上 順	
取締役	大森基靖	
取締役	田島 謙	
取締役（社外）	柳澤勝久	
取締役（社外）	松井 香	
監査等委員である取締役	藤村孝明	
監査等委員である取締役（社外）	山田勝重	
監査等委員である取締役（社外）	菅原英雄	

株式の状況		（2015年3月31日現在）
発行可能株式総数	197,735,000株	
発行済株式の総数	68,137,308株	
株主数	4,905名	

上位株主			（2015年3月31日現在）
株主名	持株数（株）	持株比率（％）	
明治安田生命保険相互会社	5,544,000	8.64	
田島株式会社	4,327,000	6.75	
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,931,173	6.13	
東燃ゼネラル石油株式会社	3,894,061	6.07	
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口	3,201,700	4.99	
リンナイ株式会社	2,682,464	4.18	
橋本産業株式会社	2,610,700	4.07	
全国ミツウロコ会持株会	2,059,384	3.21	
株式会社パロマ	1,685,124	2.62	
株式会社三井住友銀行	1,676,331	2.61	

当社は自己株式を4,041,307株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。



株主メモ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告により、当社ホームページ（http://www.mitsuuroko.com/）に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

郵便物送付先・お問い合わせ先	
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324（未払配当金の受領など）

住所変更、単元未満株式の買取および買増請求等のお申し出先につきましては、株主様が口座をお持ちの証券会社にお申し出ください。
ただし、株券電子化に際して、株券を証券会社の口座に入庫しなかった等の理由により、特別口座において管理されている株式の場合は、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行が住所変更等のお申し出先となります。

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続お取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店、全国各支店、営業所およびプラネットブース（みずほ銀行内の店舗） みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トランスラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店、みずほ銀行	本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります。）
ご注意	支払明細発行については、右の「証券会社等に口座をお持ちでない場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。